

平成 27 年度教育に関する総合調査 調査結果の読み取りに当たって

本市では、学びの高まりを目指す「岡山型一貫教育」と学びの広がりを目指す「地域協働学校」を二つの柱として、自立する子どもを育てていく教育を推進しています。

そこで、今回の総合調査の結果についても、児童生徒については、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの変化を、また、保護者、教職員については、幼稚園・認定こども園から中学校までの変化を見えています。さらには、児童生徒、保護者、教職員の関連した項目間の相関や、昨年度の調査からの変化にも着目して読み取ることとしました。

<児童生徒>

小学校、中学校の児童生徒の結果を比べると、肯定的な回答の割合は中学校の方が低くなっています。また、学年別に見ると、多くの項目では中学校 2 年生で最も低くなり、3 年生で回復するという傾向が見られます。これらの傾向は昨年度と変わっていませんが、今年度は、ほとんどの項目で肯定的な回答の割合が昨年度よりも高くなっています。

スマートフォンやゲーム機を使用する際のルールやマナーについて、児童生徒による話し合い活動を実施し、児童生徒自身の問題意識を育てる取組を進めてきました。質問 8「テレビを見たり、ゲームやメールをしたりするのが、長時間にならないように気をつけている」での肯定的な回答の割合は昨年度よりも高くなっており、小学校で 2.0 ポイント増の 71.3%、中学校で 3.4 ポイント増の 50.2%となっています。

本市では、中学校区内の他校園との連携を図り、小学校と中学校のつながりを大切にしている取組を行っています。しかし、質問 4「学校の授業はわかりやすく楽しい」や質問 8「テレビを見たり、ゲームやメールをしたりするのが、長時間にならないように気をつけている」、質問 14、15「地域や岡山市の自然や歴史に対する興味や関心がある」などで、肯定的な回答の割合について、小学校と中学校との間に大きな差が見られます。

地域協働学校の取組で多くの中学校区であいさつ運動に力を入れています。質問 10「地域の人に進んであいさつをしている」では、肯定的な回答の割合が昨年度よりも高くなっており、小学校で 1.2 ポイント増の 86.6%、中学校で 1.2 ポイント増の 79.4%となっています。

※肯定的な回答・・・「①あてはまる」と「②どちらかというにあてはまる」を合わせた回答

<保護者>

幼稚園・認定こども園，小学校，中学校の保護者の結果を比べると，肯定的な回答の割合は幼稚園・認定こども園の保護者が高く，小学校，中学校と順に低くなっていく傾向があります。この傾向は昨年度と変わっていませんが，今年度は，全ての項目で肯定的な回答の割合が昨年度よりも高くなっています。

学校園では，人材を活用したり体験活動を充実させたりする教育活動を行っています。質問2「人材活用の推進」と質問3「体験活動の充実」の項目では，肯定的な回答の割合が昨年度よりも高くなっており，幼稚園・認定こども園では約95%の保護者が，それらによって子どもの総合的な学力が伸びていると感じています。小中学校でも肯定的な回答の割合は昨年度よりも高くなっていますが，小学校では約65%，中学校では約55%と幼稚園・認定こども園との間に差が見られます。

全国学力・学習状況調査の質問紙調査から，本市は家庭学習に関する課題があることがわかっています。保護者の質問6「あなたは，計画的に勉強するよう子どもにうながしている」では，肯定的な回答の割合が小学校で77.2%，中学校で75.2%なのに対して，児童生徒の質問13「私は，自分で計画を立てて勉強している」では，肯定的な回答の割合が，小学校59.1%，中学校53.3%となっており，いずれも肯定的な回答の割合は昨年度よりも高くなっていますが，保護者と児童生徒との間に差が見られます。

園児児童生徒や地域住民などの安全を確保するために，校舎の耐震性の確保について，重点的かつ計画的な取組を進めています。質問5「安全などに配慮して施設・設備を整えている」の項目では，肯定的な回答の割合が昨年度よりも高くなっており，3.9ポイント増の84.2%となっています。

※肯定的な回答・・・「①あてはまる」と「②どちらかというにあてはまる」を合わせた回答

<教職員>

幼稚園・認定こども園，小学校，中学校の教職員の結果を比べると，肯定的な回答の割合は幼稚園・認定こども園の教職員が高く，小学校，中学校と順に低くなっていく傾向があります。この傾向は昨年度と変わっていませんが，今年度は，ほとんどの項目で肯定的な回答の割合が昨年度よりも高くなっています。

本市では，思いやりの心や規範意識，向上心をもった岡山っ子の育成を目指し道徳教育を推進しています。教職員の質問 2 と保護者の質問 7 の「思いやりの心が育ってきているか」という項目を比べると，いずれも肯定的な回答の割合が昨年度よりも高くなっています。肯定的な回答の割合は，幼稚園・認定こども園では教職員が 97.8% に対して保護者が 94.8% と大きな差は見られませんが，小学校では教職員が 78.7% に対して保護者が 87.1%，中学校では教職員が 70.2% に対して保護者が 85.0% となっており，いずれも教職員よりも保護者の方が高くなっています。

本市が推進する ESD について，学校では総合的な学習の時間を中心に，地域の自然や歴史を教材とした学習を進めています。教職員の質問 3 や，保護者の質問 8 の「郷土を愛する心が育ってきていると感じるか」という項目を見ると，肯定的な回答の割合は，教職員が 74.3% で保護者が 66.2% となっています。これに対して，児童生徒の質問 14，15 の「地域や岡山市の自然や歴史に対する興味や関心がある」の項目の肯定的な回答の割合は，自然については小学校 60.6%，中学校 43.3%，歴史については小学校 55.9%，中学校 40.6% となっており，いずれも肯定的な回答の割合は昨年度よりも高くなっていますが，教職員・保護者と児童生徒との間に差が見られます。

本市では，地域協働学校を中心とした家庭や地域などとの横のつながりを生かした取組を進めています。質問 8 「基本的な生活習慣の定着に向けて家庭と連携して取り組んでいる」では 2.2 ポイント増の 88.6%，質問 10 「家庭や地域と協働した取組を効果的に行っている」では 2.7 ポイント増の 87.9% といずれも肯定的な回答の割合が昨年度よりも高くなっています。

※肯定的な回答・・・「①あてはまる」と「②どちらかというにあてはまる」を合わせた回答